

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 34
2019.2

TOPICS

1

「SDGsフォーラム in 岡山2019」を開催



国連が掲げる「持続可能な開発目標」(SDGs)への理解を深めるフォーラム(主催:岡山市、岡山大学、岡山経済同友会、岡山ESD推進協議会)を2月17日、岡山国際交流センターで開催しました。

環境ジャーナリストの枝廣敦子氏による基調講演があったほか、パネルディスカッションも行われ、横井篤文副学長(海外戦略担当)ら4人のパネリストが登壇。横井副学長は「2019年は『SDGs経営元年』。榎野学長が提唱したキャッチフレーズ『Move on Now』の姿勢でSDGs経営に全学で取り組み、具体的な事業を戦略的に実施していきたい」と強調しました。

閉会では岡山ESD推進協議会会長で大学院環境生命科学研究所の阿部宏史教授があいさつ。市民をはじめ、行政関係者、大学関係者、企業関係者など約300人が参加しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8344.html

TOPICS

2

「SDGsセミナーin岡山」で 本学のSDGsの取り組みについて講演

2月1日に岡山大インキュベータで開催された、独立行政法人中小企業基盤整備機構中国本部が主催する「SDGsセミナーin岡山」で、狩野光伸副理事(SDGs推進担当)が本学のSDGsの取り組みについて講演を行いました。

本セミナーは、これからの企業経営に大きな影響を与えるSDGsについて取り組みへの理解を深め、中小企業の経営力の強化に向けたヒントを掴むことを目的として開催。狩野副理事は、SDGsの考え方に沿って新しいアイデアを創出していく重要性についての導入的な講演を行いました。また、本学IR/IE室の室員としても活動している本学大学院ヘルスシステム統合科学研究科の藤井雅利さん(博士前期課程1年)と大学院社会文化科学研究科の中島一優さん(博士前期課程1年)がモデレーターとなり、SDGsカードゲーム『THE SDGs Action cardgame「X(クロス)」』を使用したワークショップも開催。中小企業の経営者ら約30人が参加しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8312.html

最近の大学の取り組み

教育学部生が池田動物園でイベントを開催



本学教育学部の学生が池田動物園でお正月企画「池田動物園で動物たちにお年玉(エサ)をプレゼントしよう!ゲームに挑戦したら動物たちのエサがもらえる」を1月14日、1月20日に開催しました。

イベントはSDGsの取り組みの一環として学生が企画。動物園を訪れた子どもたちが4つのゲームに取り組み、ゲームで得た合計ポイントを餌と交換する仕組みです。ゲームの後は親子で園内を巡ってもらい、動物たちへの餌やりを体験。餌やりを通して、子どもたちは、自然と動物にふれ合う時間が増え、興味を持った様子でした。また、子どもの心の発達を学ぶ学生たちは、子どもたちの反応や年齢に応じた対応の仕方などを学びました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8315.html

馬建鋒教授が「平成30年度日本農学賞」を受賞

農学分野で優れた成果を挙げた研究者に贈られる「平成30年度日本農学賞」(日本農学会)の受賞者が2月12日に発表され、資源植物科学研究所の馬建鋒教授が選ばれました。同賞授与式は4月5日、東京大学山上会館で開催される第89回(平成30年度)日本農学大会で行われます。

今回、馬教授は「作物のミネラル輸送機構に関する研究」の業績が評価され、日本の農学研究者間における最高の栄誉とされる同賞の受賞が決定しました。馬教授は、受賞に対し「こつこつと地道に頑張ってきた結果、このように評価していただき、大変嬉しく思います。今後もこの賞を励みに、さらに精進していきたい」とコメントしています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8328.html



大学院社会文化科学研究科(文)の中川さんが日本学術振興会 育志賞を受賞



受賞が決定した中川さん(中央)と大学院社会文化科学研究科の教員ら

独立行政法人日本学術振興会が実施している「第9回(平成30年度)日本学術振興会育志賞」の受賞決定が行われ、本学大学院社会文化科学研究科(文学系)の中川朋美さん(博士後期課程)の受賞が決定しました。

中川さんは、松本直子教授の指導のもと、「先史時代から国家成立期における暴力の文化的背景」というテーマで研究。遺跡出土人骨の受傷痕跡の分析を精力的に進め、学会や論文で発表するほか、教員とともに学会運営や学生指導にも熱心に取り組んでいます。授賞式は、3月8日に日本学士院(東京都)で行われる予定です。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8321.html



PRESS RELEASE 1

ヒザラガイの「磁石の歯」形成に関わるタンパク質を同定 —磁鉄鉱の環境に優しい合成法に生かせる可能性—

細菌や鳥、魚などの生物体内から磁鉄鉱(Fe_3O_4)が発見され、報告されていますが、細菌以外の生物が磁鉄鉱を形成する仕組みはこれまで不明でした。大学院環境生命科学研究科の根本理子特任助教らの共同研究グループは世界で初めて、磁鉄鉱の歯を持つヒザラガイの遺伝子・タンパク質の網羅的解析を行い、磁鉄鉱の形成に関わると考えられるタンパク質群の同定に成功しました。この成果は1月29日、イギリスの国際学術誌「Scientific reports」のオンライン版に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id601.html



オオバンヒザラガイ(左)とその歯(右)

PRESS RELEASE 2

「研究者のたまご」がひよこの有用遺伝子の作用機序を解明～換羽の仕組み解明や食の安全・安心につながる発見～



理学部フロンティアサイエンティスト特別コース生の岡村彩子さん(生物学科4年生)とコース修了生の増本絢音さんは、遅羽性遺伝子の作用機序の解明に成功しました。本研究成果は2018年12月27日、国際比較内分泌学会連合の機関誌「General and Comparative Endocrinology」のオンライン版に掲載されました。ニワトリ初生ヒナの主翼羽の伸長には、生えそろうのが速い速羽性(野生型)と遅羽性の遺伝形質があります。本研究では、遅羽性遺伝子が胚での羽伸長を抑制する一方で、孵化後には羽伸長を促進することに着目し、遅羽性遺伝子の働きの詳細を解析しました。その結果、遅羽性遺伝子が機能的なプロラクチン受容体量を変化させることで、羽伸長速度を変化させている可能性が示唆されました。本研究成果は、羽形成や換羽の仕組みの解明、鶏肉の「食の安全・安心」につながることを期待されます。

(写真)プロイラー孵化2日目の翼。矢印は主翼羽を示す。上が速羽性♀、下が遅羽性♂。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id602.html

